

1 単元名 使い分け説明クイズを作ろう

「くらしの中の和と洋」(東京書籍4年下)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元には、「使い分け説明クイズを作る」という言語活動を単元を貫いて位置付けた。使い分け説明クイズとは、いくつかのヒントを基に、二つのものを答える形式の文章である。そこで、教材文を書き換えたり、集めた事柄を基に使い分け説明クイズを作ったりする活動を通して、段落のつながりや対比した関係を捉えることができる。したがって、本単元でねらう「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えて文章を読む。」(C読むことイ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまで「ヤドカリとイソギンチャク」の学習の中で、段落の役割を理解して、文章の内容の中心を捉える学習をしてきた。その結果、段落がひとまとまりの内容を構成する役割を持っていることを理解し、中心となる語や文に注目して要点をまとめる力が身に付いてきた。しかし、段落同士の結び付きを捉えたり、自分で表現する際に、段落相互の関係に気を付けたりする力は、まだ十分に身に付いているとは言えない。

(2) 教材観

本教材「くらしの中の和と洋」は、「序論—本論—結論」の3段で構成されており、「衣・食・住」の中から、「住」の和室と洋室を取り上げて説明している文章である。和室と洋室、それぞれの違いとよさを「すごし方」、「部屋の使い方」という二つの観点から、対比して説明しており、段落相互の関係を捉える力を育てるのに適した教材である。

(3) 指導観

本単元では、「使い分け説明クイズを作る」という単元を貫く言語活動を設定する。第1段階では、上下段に配列し直した教材文を活用して、意味段落を捉えることができるようにする。第2段階では、まず、中心となる語の色分けによって、対比して説明していることに気付くことができるようにする。次に、意味段落に付けた小見出しを基に、色別付箋と表を活用して、形式段落の要点をまとめさせるようにする。このような活動を通して、形式段落ごとに内容を整理することができるようにする。第3段階では、付箋の順序を操作して、教材文をクイズに書き換えるという活動を設定し、段落同士をつないで並べることができるようにする。さらに、自分で集めた事柄の順序を操作して、使い分け説明クイズを作る活動も設定し、学んだことを生かすことができるようにする。このような活動を通して、目的に応じて、段落相互の関係を捉える力が育つであろうと考える。

4 単元の目標

- 筆者の表現の仕方に関心をもち、学習したことを生かして意欲的に「使い分け説明クイズ」を作ろうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 教材文の段落相互の関係を捉え、自分の表現に生かすことができる。(読むこと)
- 段落同士のつながりに果たす役割を理解し、接続語を適切に使うことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・教師が作った「使い分け説明クイズ」に取り組む活動を通して、「使い分け説明クイズ」を作る際に気を付けることを知り、クイズ作りに意欲的に取り組もうとしている。	・教材文における形式段落、意味段落同士のつながりや対比の関係を捉えている。 ・教材文の段落相互の関係を参考にし、使い分け説明クイズを作っている。	・段落同士のつながりに果たす役割を理解し、「まず」、「次に」、「そして」、「一方」などの接続語を適切に使っている。

6 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動	主な評価	関	読	言
一	1	教師が作った使い分け説明クイズに答え、使い分け説明クイズを作るという目標を持つ。	・使い分け説明クイズを作る際に気を付けることを知り、クイズ作りに意欲的に取り組もうとしている。	○		
二	1	教材文を読み、筆者の問いと考えが記述されている箇所を探し、筆者の考えを読み取る。	・「序論－本論－結論」の構成を理解し筆者の考えを捉えている。		○	
	2	上下段に配列し直した教材文を読み、意味段落に分け、形式段落ごとに要点をまとめ、内容を表に整理する。	・意味段落を捉え、形式段落の要点を表に分類する活動を通して、文章の内容を整理している。		○	
	3	形式段落や意味段落のつながりに気を付け、付箋を操作し、序論と結論を書いて、教材文をクイズに書き換える。	・教材文をクイズに書き換えるという目的に応じて、段落同士をつないで並べている。 ・段落同士のつながりに果たす役割を理解し、接続語を適切に使っている。		○	○
	4	使い分け説明クイズを作るために事柄を集め、表に整理する。	・集めた事柄を、表に分類する活動を通して、形式段落ごとに文章の内容を整理している。		○	
	5 (本時)	付箋を操作し、序論と結論を書き、使い分け説明クイズを作る。	・使い分け説明クイズを作るという目的に応じて、段落同士をつないで並べている。 ・段落同士のつながりに果たす役割を理解し、接続語を適切に使っている。		○	○
三	1	クイズ大会を行う。	・クイズ大会に意欲的に取り組み、友達のよかった点を自分の表現の参考にしようとしている。 ・目的に応じて段落相互の関係を捉えることの必要性に気付いている。	○	○	

7 本時の学習

(1) 目標

付箋の順序を操作する活動を通して、接続語の役割を理解したり、目的に応じて、段落同士をつないで並べたりすることができる。

(2) 準備・資料

掲示物（本論の内容を整理した表、使い分け説明クイズのモデル文）、ワークシート、付箋

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ヒントの順序を考えて「使い分け説明クイズ」を作ろう。</p> </div> <p>2 クイズを作るという目的に応じて、段落同士をつないで並べる。</p> <p>(1) 形式段落の順序を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・この二つの付箋は、同じ内容なのでまとめた方がよい。</p> <p>・まず(赤)について、次に(青)についてという順序にした方が、難しくなる。</p> <p>・付け足しの内容の付箋は、後にした方がよい。</p> </div> <p>(2) 意味段落の順序を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・このままの順序でよい。</p> <p>・逆にした方がよい。</p> </div> <p>3 つなぎの言葉を補う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【つなぎの言葉】</p> <p>「まず」、「次に」、「そして」、「最後に」</p> <p>「これに対して」、「一方で」</p> </div> <p>4 クイズを作るという目的に応じて、「序論」「結論」を書く。</p> <p>(1) 「序論」、「結論」を書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 水とうとペットボトル</p> <p>【序論】</p> <p>「(赤)と(青)には、(飲み物を入れるもの)という共通点があります。(赤)と(青)をどのように使い分けているのかを(説明します)。」</p> <p>【結論】</p> <p>「(赤)と(青)には、それぞれ良さがあることが分かりました。わたしたちはその両方の良さを使い分けて、くらしているのです。(赤)と(青)は何でしょう?)」</p> </div> <p>(2) クイズをグループで読み合い、相互評価をする。</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【今日の授業で学んだこと】</p> <p>「今日の学習では、ヒントの順序に気を付けることや、つなぎの言葉を上手に使うことを学びました。次のクイズ大会でも、順序に気を付けたいです。」</p> </div>	<p>○教材文の段落相互の関係を参考にし、自分の表現に生かすように助言する。</p> <p>○モデル文を提示しておき、児童が活動のゴールを視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>○前時に要点をまとめた表を見せながら、児童が本時の活動の見通しを立てられるようにする。</p> <p>○意味段落を基に考えられるように、「部屋での過ごし方」、「部屋の使い方」についての付箋それぞれの順序を考えるように助言する。</p> <p>○形式段落や意味段落の順序を考える際には、グループで意見交換する時間を設定し、順序について助言したり、修正を加えたりする。</p> <p>○並び換えにとまどっている児童には、モデル文を提示し、「難しいヒントから易しいヒント」という順になっていることに気付くことができるようにする。</p> <p>○クイズのヒントとして適切な順序になっているかという視点で、見直す時間を設定する。</p> <p>○形式段落同士が接続語によって結び付いていることを確認できるように、つなぎの言葉を使うよう助言する。</p> <p>㊦段落同士のつながりに果たす役割を理解し、接続語を適切に使っている。(〔言〕ワークシート)</p> <p>○「序論」には「問い」の文、「結論」には「筆者の考え」が入るという前時までの学習を振り返り、「使い分け説明クイズ」の「序論」、「結論」を書くように助言する。</p> <p>○「本論」の内容と関連させることができるように「序論」、「結論」の文型を提示する。</p> <p>【序論の文型】</p> <p>「(赤)と(青)には、～という共通点があります。それぞれどのように使い分けているか(説明します)。」</p> <p>【結論の文型】</p> <p>「(赤)と(青)には、それぞれ良さがあることが分かりました。わたしたちは(赤)と(青)を使い分けてくらしているのです。(赤)と(青)は何でしょう)。」</p> <p>○お互いに、ヒントの順序やつなぎの言葉が適切かを確認し合えるよう、グループで読み合う時間を設定する。</p> <p>㊦付箋の順序を操作する活動を通して、使い分け説明クイズを作るという目的に応じて、段落同士をつないで並べている。(〔読〕ワークシート・ノート)</p> <p>○全体で何人かに発表させる場を作り、児童が、どのような点に気を付けて活動したのかを共有できるようにする。</p>